

## <マニュアル訂正連絡票>

# ASP Webjet 使用手引書 V28

[J2K0-5730-01C2]

2019年9月30日発行

修正箇所 (章節項) : 5.23 富士通 JRE 使用時の注意事項

### 旧記事

2019年6月25日発行のマニュアル訂正連絡票に対する訂正  
「5.23 富士通 JRE 使用時の注意事項」の文末に新記事追加

### 新記事

#### ・JavaScript 連携機能の利用について

JavaScript 連携の Connect 関数は使用できません。

修正箇所 (章節項) : 5.24 Oracle JRE 使用時の注意事項

### 旧記事

2019年6月25日発行のマニュアル訂正連絡票に対する訂正

Oracle 社の JRE8 を利用する場合、Web サイトから JRE8u201(Java 8 Update 201)をダウンロードし、パソコンにインストールしてください。JRE8u201 より新しいバージョンの JRE8 ではアプレットが動作しないため、アップデートは行わないでください。Oracle 社の JRE8 はすでに Oracle 社によるサポートが終了しており、Oracle JRE8 に起因するトラブルについては対応できません。

### 新記事

#### ・Oracle 社の JRE8 利用について

Oracle 社の JRE8 を利用する場合、Web サイトから JRE8u201(Java 8 Update 201)をダウンロードし、パソコンにインストールしてください。JRE8u201 より新しいバージョンの JRE8 ではアプレットが動作しないため、アップデートは行わないでください。Oracle 社の JRE8 はすでに Oracle 社によるサポートが終了しており、Oracle JRE8 に起因するトラブルについては対応できません。

#### ・JavaScript 連携機能の利用について

JavaScript 連携の Connect 関数は使用できません。

2019年6月25日発行

修正箇所 (章節項) : 5.23 富士通 JRE 使用時の注意事項

### 旧記事

新記事追加

### 新記事

## 5.23 富士通 JRE 使用時の注意事項

#### ・インターネットに接続できない環境での Webjet 起動について

デフォルトゲートウェイを設定しないことでインターネットに接続できない環境を構築している場合、Webjet 起動時に表示されるセキュリティ警告ダイアログの“常に信頼する”を選択すると、ブラウザ画面に“アプレットの初期化中”が表示されたままで

Webjet が起動されません。このような場合は、以下の手順で Internet Explorer の設定を行って、保護モードを無効にしてください。

- 1) Internet Explorer の「インターネット オプション」を起動してください。
- 2) 「インターネット オプション」画面の“セキュリティ”タブを選択してください。
- 3) “セキュリティ”タブの“インターネット”ゾーンを選択してください。
- 4) “このゾーンのセキュリティのレベル(L)”領域で、“保護モードを有効にする(Internet Explorer の再起動が必要)(P)”のチェックを外してください。
- 5) “OK”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet を再起動してください。

#### ・サーバと別セグメントにある端末からのファイル転送について

サーバと別セグメントにある端末から FEXPORT/FIMPORT コマンドを実行する際、サーバ上のファイル転送パラメタファイルを指定したにも関わらず、毎回、送受信パラメタを設定する問い合わせ画面が表示される場合は、以下のどちらかの方法で、プロキシの除外リストに Webjet を利用するホスト名を追加してください。

ー Internet Explorer の設定を行って、プロキシ除外を有効にする方法

- 1) Internet Explorer の「インターネット オプション」を起動してください。
- 2) 「インターネット オプション」画面の“接続”タブを選択してください。
- 3) “接続”タブの“LAN の設定(L)”をクリックしてください。
- 4) 「ローカル エリア ネットワーク(LAN)の設定」画面の“プロキシサーバー”領域で、“LAN にプロキシサーバーを使用する(これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)”をチェックし、“詳細設定”をクリックしてください。
- 5) 「プロキシの設定」画面の“例外”領域で、“次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)”に、Webjet を利用するホスト名を追加してください。
- 6) “OK”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet を再起動してください。

ー JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)に、プロキシの除外リストを記述する方法

- 1) 以下のパラメタすべてをセットで記述してください。デフォルト状態では、jbkplugin.properties 内のプロキシの設定行はコメント行(＃の付いた行)になっています。行の先頭の＃を取り除いて、プロキシの設定を行ってください。  
jbk.plugin.proxy.enable=true (HTTP プロキシを使用する)  
jbk.plugin.proxy.http.host=HTTP プロキシのホスト名  
jbk.plugin.proxy.http.port=HTTP プロキシのポート番号  
jbk.plugin.proxy.override=Webjet を利用するホスト名 (HTTP プロキシを使用しないアドレスまたはホスト名のリスト)
- 2) 変更した設定を保存し、JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)を閉じてください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet を再起動してください。

## ・リモートデスクトップ接続での Webjet 利用について

ディスプレイの拡大率に 100%より大きい値を設定している端末から、リモートデスクトップ接続で Windows 10 の端末に接続して Webjet を利用すると、Webjet エラー画面の下部が欠けて表示されることがあります。この場合、以下の手順で、リモートデスクトップの接続元のディスプレイの設定を変更してください。

### ー 接続元が Windows 7 の場合

- 1) 「コントロール パネル」の“デスクトップのカスタマイズ”をクリックしてください。
- 2) “ディスプレイ”をクリックしてください。
- 3) “画面上の文字を読みやすくします”で、“小-100%”を選択してください。
- 4) “適用”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

### ー 接続元が Windows 8.1 の場合

- 1) 「コントロール パネル」の“デスクトップのカスタマイズ”をクリックしてください。
- 2) “ディスプレイ”をクリックしてください。
- 3) “すべてのディスプレイで同じ拡大率を使用する”をチェックして、“すべての項目のサイズを変更する”で、“小-100%”を選択してください。
- 4) “適用”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

### ー 接続元が Windows 10 の場合

- 1) 「設定」の“システム”をクリックしてください。
- 2) “ディスプレイ”をクリックしてください。
- 3) “拡大縮小とレイアウト”で、“テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更する”の“100%”を選択してください。

一旦サインアウトした後、再びサインインして、リモートデスクトップ接続を実行し、Webjet を再起動してください。

修正箇所 (章節項) : 5.24 Oracle JRE 使用時の注意事項

旧 記 事

新記事追加

新 記 事

## 5.24 Oracle JRE 使用時の注意事項

Oracle 社の JRE8 を利用する場合、Web サイトから JRE8u201(Java 8 Update 201)以前のバージョンをダウンロードし、パソコンにインストールしてください。JRE8u201 より新しいバージョンの JRE8 ではアプレットが動作しないため、アップデートは行わないでください。Oracle 社の JRE8 はすでに Oracle 社によるアプレットのサポートが終了しており、Oracle JRE8 に起因するトラブルについては対応できません。

2018年12月25日発行

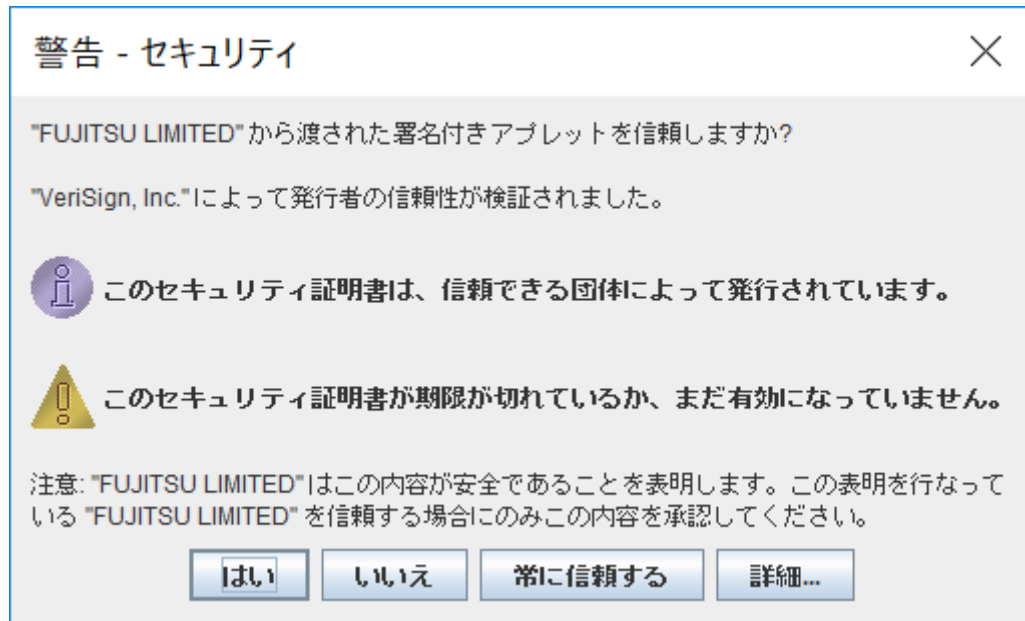
修正箇所（章節項）：6.9 アプレット認証について

旧記事

以下に Webjet アプレットの認証ダイアログの例を示します。

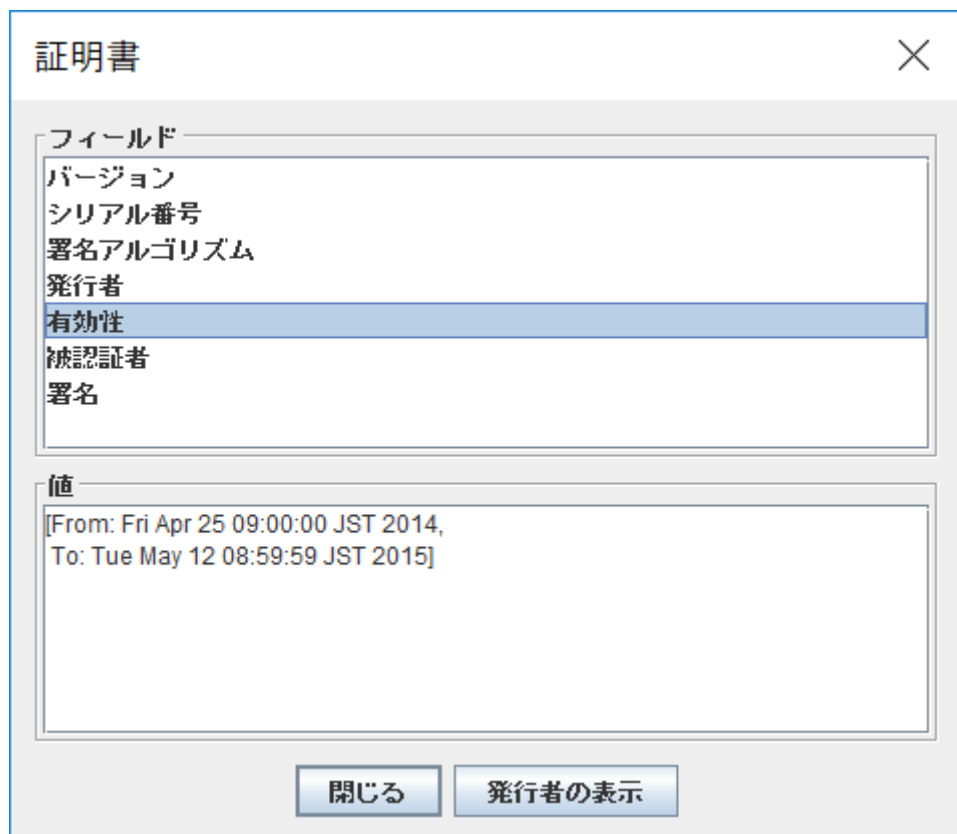
新記事

以下に、富士通 JRE を使用する場合の Webjet アプレットの認証ダイアログの例を示します。



備考.

- ・ “常に信頼する” ボタンを押すことにより、次回以降、Webjet アプレットを実行する時に、認証ダイアログの表示をスキップできます。
- ・ ダイアログに、セキュリティ証明書の期限が切れている旨のメッセージが表示される場合がありますが、期限が切れていても問題はありません。
- ・ Webjet アプレットの有効期限は以下の方法で確認できます。
  - 1) 認証ダイアログの「詳細…」をクリックします。
  - 2) 詳細情報ダイアログが表示されるので、「有効性」をクリックします。
  - 3) 「有効性」フィールドの値が有効期限になります。



以下に、Oracle JRE を使用する場合の Webjet アプレットの認証ダイアログの例を示します。

修正箇所 (章節項) : 6.25 富士通 JRE と Oracle JRE が共存する端末使用時の注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

6.25 富士通 JRE と Oracle JRE が共存する端末使用時の注意事項

富士通 JRE と Oracle JRE の両方がインストールされた端末では、富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML と Oracle JRE 用の Webjet 起動用 HTML は、ブラウザの新しいウィンドウを開いて、それぞれ別ブラウザで起動してください。

修正箇所 (章節項) : 8.5.2 運用管理 WWW サーバからの Webjet のセットアップ

アプレットパラメタ設定

基本設定

以下の内容は、V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です。

旧記事

基本設定

エミュレーション種別 :  F6970  F6680

使用するエミュレーション種別を指定します。

## 基本設定

動作Java種別 : 富士通版 Oracle版

使用する Java 実行環境の種別を選択します.

富士通版を選択すると, Interstage Studio クライアント運用パッケージに添付された JRE8 を使用します。Oracle 版を選択すると, Oracle Corporation の JRE8 を使用します.

エミュレーション種別 : F6970 F6680

使用するエミュレーション種別を指定します.

修正箇所 (章節項) : 8.5.3 運用管理 WWW サーバで作成した HTML の編集  
Webjet 起動用 HTML の設定例

## HTML 文書の設定例

以下に Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の例を示します.

## HTML 文書の設定例

以下に, 富士通 JRE を使用する場合の Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の例を示します.

```
<HTML>
<HEAD>
  <META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=x-sjis">
  <TITLE>webjet</TITLE>
</HEAD>
<BODY>

<OBJECT CLASSID="CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67" WIDTH="648"
HEIGHT="556">

<PARAM NAME="TYPE" VALUE="application/x-JBK-Plugin">
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="/webjet/WebjetApplet">
<PARAM NAME="CODE" VALUE="webjet.f69.dsp.Tn69Client.class">
<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="jars/wjet.jar">

<CALL pr_luname>
<PARAM NAME="TERMTYPE" VALUE="FUJITSU-6970-01-WJ02">
<PARAM NAME="LAYOUTKEY" VALUE="10 2">
<PARAM NAME="WINSEPARATE" VALUE="no">
<PARAM NAME="FONTSIZE" VALUE="16">
<PARAM NAME="LOCALFONT" VALUE="no">
<PARAM NAME="NOKEYPANEL" VALUE="no">
<PARAM NAME="VERTBUTTON" VALUE="no">
<PARAM NAME="BGCOLOR" VALUE="black">
<PARAM NAME="CODETYPE" VALUE="ek">
<PARAM NAME="JEFTOJIS" VALUE="83">
<PARAM NAME="BLINK" VALUE="no">
<PARAM NAME="JFIELDFIX" VALUE="no">
<PARAM NAME="SELECTDSP" VALUE="REVERSE">
<PARAM NAME="SELECTCOLOR" VALUE="green">
<PARAM NAME="COLORCOPY" VALUE="no">
<PARAM NAME="WEBJETDIR" VALUE="C:¥WEBJET">
<PARAM NAME="MCRFUNC" VALUE="no">
<PARAM NAME="RASMODE" VALUE="delay">
<PARAM NAME="RASPUT" VALUE="SERVER">
<PARAM NAME="RASFILESIZE" VALUE="1048576">
<PARAM NAME="RASDATASIZE" VALUE="512">
<PARAM NAME="TRACE" VALUE="no">
<PARAM NAME="MIXFONT" VALUE="no">
<PARAM NAME="MAXIMIZE" VALUE="no">
<PARAM NAME="VIRTUALFONT" VALUE="no">
<PARAM NAME="VFONTSIZE" VALUE="16">

<!--CUSTOMIZE-START-->
<!-- ここから CUSTOMIZE-END 行の前まで、管理者のカスタマイズが -->
<!-- 可能です。それ以外の部分は環境設定によって上書きされます -->
<!-- 起動に必要なパラメタ -->
<PARAM NAME="PORTNO" VALUE="23">
<PARAM NAME="FONTSERVERPORT" VALUE="9998">
<PARAM NAME="RASPORT" VALUE="9997">
```

```
<!-- 接続に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="HBINTERVAL" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="DISCONNECT" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="FONTGET" VALUE="ONDEMAND"---->
<!-- PARAM NAME="IDLEWATCH" VALUE="3600"---->
<!-- 標準機能に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="BASECOLOR" VALUE="2"---->
<!-- PARAM NAME="DEVMODE" VALUE="2"---->
<!-- PARAM NAME="NUMLOCK" VALUE="modify"---->
<!-- PARAM NAME="DOTONLINE" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="PENTERSPSUP" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="JEFTOJIS2004" VALUE="no"---->
<!-- オプション機能に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="PERFORMURL" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="DEBUGURL" VALUE="yes"---->
<PARAM NAME="OPTIONIO" VALUE="yes">
<!-- PARAM NAME="SAVEPERFORM" VALUE="yes"---->
<PARAM NAME="KEYLOCK" VALUE="yes">
<!-- PARAM NAME="IMFMODE" VALUE="66"---->
<!-- PARAM NAME="SKIPDSP" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="IGNORECURSEL" VALUE="yes"---->
<!-- 画面の表示形式に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="WINDOWPOSITION" VALUE="0,0"---->
<!-- PARAM NAME="TASKTOP" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="TASKBOTTOM" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="TASKLEFT" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="TASKRIGHT" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="CPFONTSIZE" VALUE="9"---->
<!-- PARAM NAME="MSGFONTSIZE" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="CONFIRMCLOSE" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="USERCLOSE" VALUE="no"---->
<!-- 画面の表示色に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="URLCOLOR" VALUE="blue"---->
<!-- PARAM NAME="IMFCOLOR" VALUE="red"---->
<!-- PARAM NAME="ORANGE" VALUE="#e69950"---->
<!-- ローカルコピー機能に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="PAPERSIZE" VALUE="b5"---->
<!-- PARAM NAME="PRTMODE" VALUE="landscape"---->
<!-- PARAM NAME="AUTOSCALINGCOPY" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="SCALE" VALUE="0.7"---->
<!-- マクロ機能に関するパラメタ --->
<!-- PARAM NAME="MCRSERVNAME" VALUE="A.mcr,B.mcr"---->
<!-- PARAM NAME="MCRAUTOEXECCLIENT" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="MCRCLIENTEXEC" VALUE="yes"---->
```



```
<!-- ファイル転送機能に関するパラメタ ---->
<!-- PARAM NAME="DUETSPECIALCODE" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="DUETSERVDIR" VALUE="/duet"---->
<!-- PARAM NAME="DUETCLIENTPARAMFILE" VALUE="yes"---->
<!-- Webjet キーボードに関するパラメタ ---->
<!-- PARAM NAME="KEYBOARDUPDATEKEY" VALUE="no"---->
<!-- 保守機能に関するパラメタ ---->
<!-- PARAM NAME="RASPREFIX" VALUE="svr01-"---->
<!-- キー割り当てに関するパラメタ ---->
<!-- PARAM NAME="NumPad_plus" VALUE="PENTER" ---->
<PARAM NAME="Shift+F1" VALUE="PF13">
<PARAM NAME="Shift+F2" VALUE="PF14">
<PARAM NAME="Shift+F3" VALUE="PF15">
<PARAM NAME="Shift+F4" VALUE="PF16">
<PARAM NAME="Shift+F5" VALUE="PF17">
<PARAM NAME="Shift+F6" VALUE="PF18">
<PARAM NAME="Shift+F7" VALUE="PF19">
<PARAM NAME="Shift+F8" VALUE="PF20">
<PARAM NAME="Shift+F9" VALUE="PF21">
<PARAM NAME="Shift+F10" VALUE="PF22">
<PARAM NAME="Shift+F11" VALUE="PF23">
<PARAM NAME="Shift+F12" VALUE="PF24">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Left" VALUE="SCROLLLEFT">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Right" VALUE="SCROLLRIGHT">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Home" VALUE="HELP">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+End" VALUE="ERSFLD">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+PageUp" VALUE="MENTER">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F3" VALUE="RESET">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F4" VALUE="ERSEOF">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F7" VALUE="ATTN">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F9" VALUE="PA1">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F10" VALUE="PA2">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+F11" VALUE="PA3">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+*" VALUE="ENTER">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Alt+F5" VALUE="ERSINP">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Alt+F9" VALUE="DUP">
<PARAM NAME="Ctrl+Shift+Alt+F10" VALUE="FM">
<!-- PARAM NAME="DSPPF1" VALUE="ヘルプ"---->
<!-- PARAM NAME="DSPPF2" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="MYKEYPANEL" VALUE="PF1 終了,RESET,PA1,SCROLLLEFT"---->
<!-- ここまではカスタマイズが可能です. ---->
<!--CUSTOMIZE-END---->

</OBJECT>
</BODY>
</HTML>
```

以下に、Oracle JRE を使用する場合の Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の例を示します。

旧 記 事

当製品に含まれるサンプルファイルをもとにして、Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書を編集します。

HTML 文書の中の Webjet アプレット(ディスプレイエミュレート画面)を埋め込む位置に、 以下のように **APPLET タグ**を記述してください。

新 記 事

当製品に含まれるサンプルファイルをもとにして、Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書を編集します。

富士通 JRE を使用する場合、HTML 文書の中の Webjet アプレット(ディスプレイエミュレート画面)を埋め込む位置に、 以下のように **OBJECT タグ**を記述してください。

```
<OBJECT  
CLASSID="CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67"  
  WIDTH="アプレットの横幅"  
  HEIGHT="アプレットの縦幅">  
  
<PARAM NAME="TYPE" VALUE="application/x-JBK-Plugin">  
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="Webjet アプレットの位置">  
<PARAM NAME="CODE" VALUE="アプレットファイル名">  
<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="JAR アーカイブ">  
.....  
</OBJECT>
```

**CLASSID:**

<OBJECT>タグの CLASSID 属性に、“CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67”を指定します。この指定により、Internet Explorer が JBK プラグインを自動的に実行するようになります。

**アプレットの横幅:**

<OBJECT>タグの WIDTH 属性に、端末の WWW ブラウザ上に表示される Webjet アプレットの横幅をピクセル単位で指定します。

**アプレットの縦幅:**

<OBJECT>タグの HEIGHT 属性に、端末の WWW ブラウザ上に表示される Webjet アプレットの縦幅をピクセル単位で指定します。

**パラメタ名, パラメタ値:**

<OBJECT>...</OBJECT>タグの間に、<PARAM>タグを記述します。<PARAM>タグには、アプレットを動作させるために必須の情報や、運用形態に合わせて動作をカスタマイズするための情報など、さまざまなパラメタを記述します。

Webjet アプレットの位置やファイル名などの必須パラメタを以下に説明します。

**TYPE:**

“application/x-JBK-Plugin”を指定します。

**Webjet アプレットの位置:**

Webjet アプレットの格納位置を指定します。

環境作成時に指定したディレクトリ配下の Webjet ディレクトリを、公開ディレクトリからの相対パスにて指定します。

Webjet アプレット格納位置は“WebjetApplet”を指定してください。

例.

/var/httpd/htdocs が公開ディレクトリで、その配下の“webjet”を環境作成コマンド(CRTWJETE)で指定した場合

```
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="/webjet/WebjetApplet">
```

## アプレットファイル名:

Webjet アプレットの class ファイル名を、使用するエミュレーション種別に応じて以下のように指定します。

F6680 ディスプレイエミュレーション webjet.f66.dsp.Tn66Client.class

F6970 ディスプレイエミュレーション webjet.f69.dsp.Tn69Client.class

## JAR アーカイブ:

以下のように指定します。

F6680/F6970 ディスプレイエミュレーション

<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="jars/wjet.jar">

上記以外のパラメタの設定方法については、“8.6.2 Webjet アプレットのチューニング”を参照してください。

Oracle JRE を使用する場合、HTML 文書の中の Webjet アプレット(ディスプレイエミュレート画面)を埋め込む位置に、以下のように APPLET タグを記述してください。

## 修正箇所 (章節項) : 8.6.1 Webjet 起動用 HTML の編集 HTML 文書の設定例

### 旧記事

以下に Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

### 新記事

以下に、富士通 JRE を使用する場合の Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Webjet</TITLE>
</HEAD>
<BODY>

<OBJECT CLASSID="CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67"
        WIDTH="648"
        HEIGHT="556">

<PARAM NAME="TYPE" VALUE="application/x-JBK-Plugin">
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="/webjet/WebjetApplet">
<PARAM NAME="CODE" VALUE="webjet.f69.dsp.Tn69Client.class">
<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="jars/wjet.jar">

<!-- 起動に必要なパラメタ -->
<PARAM NAME="PORTNO"          VALUE="23">
<PARAM NAME="FONTSERVERPORT"  VALUE="9998">
<PARAM NAME="RASPORT"         VALUE="9997">
<PARAM NAME="WEBJETDIR"       VALUE="c:\webjet">

</OBJECT>
</BODY>
</HTML>
```

以下に Oracle JRE を使用する場合の Webjet アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

## アプレットパラメータ一覧

- ・ [起動に必要なパラメータ](#)
- ・ [接続に関するパラメータ](#)
- ・ [標準機能に関するパラメータ](#)
- ・ [オプション機能に関するパラメータ](#)
- ・ [画面の表示形式に関するパラメータ](#)
- ・ [画面の表示色に関するパラメータ](#)
- ・ [ローカルコピー機能に関するパラメータ](#)
- ・ [マクロ機能に関するパラメータ](#)
- ・ [ファイル転送機能に関するパラメータ](#)
- ・ [保守機能に関するパラメータ](#)
- ・ [キー割り当てに関するパラメータ](#)

## アプレットパラメータ一覧

- ・ [起動に必要なパラメータ](#)
- ・ [接続に関するパラメータ](#)
- ・ [標準機能に関するパラメータ](#)
- ・ [オプション機能に関するパラメータ](#)
- ・ [画面の表示形式に関するパラメータ](#)
- ・ [画面の表示色に関するパラメータ](#)
- ・ [ローカルコピー機能に関するパラメータ](#)
- ・ [マクロ機能に関するパラメータ](#)
- ・ [ファイル転送機能に関するパラメータ](#)
- ・ [保守機能に関するパラメータ](#)
- ・ [キー割り当てに関するパラメータ](#)

### 注意:

Java 実行環境に富士通 JRE を使用する場合、アプレットパラメータ DEBUGURL の指定は無効です。それ以外のアプレットパラメータは Oracle JRE を使用する場合と同じです。

## HTML 文書のコード系を指定する

ブラウザは HTML 文書のコード系が何であることを自動的に識別していますが、必ずしも期待通りのコード系として識別してくれるとは限りません。もし誤ったコード系として認識されると、異常な動作をしたり、解析できないスクリプトエラーが表示されたりします。

上記の理由により、JavaScript 連携を使用する HTML 文書には正しいコード系を明記してください。以下に指定例を示します。

- ・ SJIS コードで編集した場合

```
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=Shift_JIS">
```

- ・ EUC コードで編集した場合

```
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=EUC-JP">
```

### Webjet アプレットに名前を付ける

JavaScript から Webjet アプレットにアクセスするための識別子となる名前を, APPLET タグの NAME 属性で指定します. Webjet アプレットを一意に識別できる名前なら, どんなものでも構いません. 以下に指定例を示します.

```
<APPLET ....省略..... NAME="webjet">  
  
.....  
</APPLET>
```

## JBK プラグインの設定ファイルを修正する

富士通 JRE を使用する場合、JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)に、JavaScript 連携を使用する旨の記述が必要です。

JBK プラグインの設定ファイルは、Interstage Studio クライアント運用パッケージのインストールフォルダの以下の場所に格納されています。

C:\Interstage\IDE\JBK\classes (デフォルト値)

以下の行を記述します。

```
# JavaScript からのアプレットのメソッド呼び出しの指定
jbk.plugin.sw.script.enable=true
```

true

JavaScript からアプレットのメソッド呼出しを利用する

インストールフォルダ配下のファイルを直接更新できない場合は、更新可能なフォルダに JBK プラグインの設定ファイルを一旦移動し、更新後にインストールフォルダ配下へ再度格納してください。

## HTML 文書のコード系を指定する

ブラウザは HTML 文書のコード系が何であるかを自動的に識別していますが、必ずしも期待通りのコード系として識別してくれるとは限りません。もし誤ったコード系として認識されると、異常な動作をしたり、解析できないスクリプトエラーが表示されたりします。

上記の理由により、JavaScript 連携を使用する HTML 文書には正しいコード系を明記してください。以下に指定例を示します。

- ・ SJIS コードで編集した場合

```
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=Shift_JIS">
```

- ・ EUC コードで編集した場合

```
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=EUC-JP">
```

## Webjet アプレットに名前を付ける

JavaScript から Webjet アプレットにアクセスするための識別子となる名前を、OBJECT タグまたは APPLET タグの NAME 属性で指定します。Webjet アプレットを一意に識別できる名前なら、どんなものでも構いません。

以下に富士通 JRE を使用する場合の指定例を示します。

```
<OBJECT .... 省略..... NAME="webjet">
.....
</OBJECT>
```

以下に **Oracle JRE** を使用する**場合の** 指定例を示します.

```
<APPLET ..... 省略..... NAME="webjet">
.....
</APPLET>
```

**修正箇所 (章節項) :** 8.11 サンプルファイル一覧

以下の内容は, V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です.

旧記事

サンプルファイルに記述されている **APPLET タグ**を編集する場合には, 「[8.6.1 HTML の編集](#)」を参照してください.

### 各端末種別のサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/Sample66J6.html

TopDir/WebjetSamples/Sample69J6.html

### マクロのサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/Signon69.mcr(自動サインオンサンプル)

TopDir/WebjetSamples/Duet69.mcr(ファイル転送サンプル)

### JavaScript 連携のサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/JavaScript69J6.html

### K 端末エミュレータキーボード使用時のサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/Sample69J6KKB.html

### カラーサンプルアプレットのサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/ColorSample.html

※TopDir : CRTWJETE で環境作成時に指定した Webjet 運用ディレクトリのパス

新記事

サンプルファイルに記述されている **OBJECT タグ**, **または** **APPLET タグ**を編集する場合には, 「[8.6.1 HTML の編集](#)」を参照してください.

### 富士通 JRE 用

#### 各端末種別のサンプルファイル

TopDir/WebjetSamples/Sample66FJ.html

TopDir/WebjetSamples/Sample69FJ.html

### JavaScript 連携のサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/JavaScript69FJ.html](#)

### K 端末エミュレータキーボード使用時のサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/Sample69KKBFJ.html](#)

### カラーサンプルアプレットのサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/ColorSampleFJ.html](#)

## Oracle JRE 用

### 各端末種別のサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/Sample66J6.html](#)

[TopDir/WebjetSamples/Sample69J6.html](#)

### JavaScript 連携のサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/JavaScript69J6.html](#)

### K 端末エミュレータキーボード使用時のサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/Sample69J6KKB.html](#)

### カラーサンプルアプレットのサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/ColorSample.html](#)

## 富士通 JRE/Oracle JRE 共通

### マクロのサンプルファイル

[TopDir/WebjetSamples/Signon69.mcr\(自動サインオンサンプル\)](#)

[TopDir/WebjetSamples/Duet69.mcr\(ファイル転送サンプル\)](#)

※1.TopDir : CRTWJETE で環境作成時に指定した Webjet 運用ディレクトリのパス

※2.JavaScript 連携のサンプルファイルで使用している関数“Type”と“Wait”は、Internet Explorer では正常に動作しない場合があります。その場合は、関数名 n(n: 引数の数)で定義している関数(“Type1”と“Wait5”)を使用してください。関数の詳細については、「8.8.1 JavaScript 連携の関数」を参照してください。



## 9.1.2 WWW ブラウザの Java 動作情報

Webjet アプレットに異常が発生した場合その内容を示す文字列および発生箇所までのスタックトレースが WWW ブラウザの機能として採取されます。WWW ブラウザでの参照方法の例を以下に示します。

### Java Plug-in の場合

Java コンソール画面で参照します。

Java コンソール画面は、タスクバーに表示された、Java Plug-in アイコンを右クリックし、“コンソールを開く”をクリックすることにより表示されます。

WWW ブラウザで採取される情報の例を以下に示します。

```
-----  
Webjet Exception Error.  
  errno = 30  
  errkind = 1  
  msg = Tn66TcpControl: Socket close accept.  
webjet.com.WjException: Tn66TcpControl: Socket close accept.  
  at webjet/f66/core/Tn66TcpControl.read  
  at webjet/f66/core/Tn66TcpControl.run  
  at java/lang/Thread.run  
-----
```

## 9.1.2 WWW ブラウザの Java 動作情報

富士通 JRE を使用した場合、Webjet アプレットに異常が発生した際は、その内容を示す文字列および発生箇所までのスタックトレースが採取され、Java コンソールに表示されます。Java コンソールは、アプレットにフォーカスがある状態で [Ctrl]+[Alt]+[Insert] キーを押すと表示されます。

新記事追加

**No. 61**

富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動すると、JBK プラグインのダイアログに以下のエラーが表示され、Webjet アプレットが起動されません。

「エラー: Java VM の起動に失敗しました。使用する JDK/JRE が正しくインストールされているか、またはすでにほかの Java VM が起動されていないか確認してください。」

**No. 62**

Oracle JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動すると、デスクトップ上にエラーログのファイル hs\_err\_pid9999.log(9999 は任意の数字)が作成され、ブラウザ下部に以下のエラーが表示されます。

「この Web ページに問題があるため Internet Explorer のタブを開き直しました」

**No. 63**

富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML で、JavaScript 連携の関数が動作しません。

新記事追加

<b>No. 61</b>	富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動すると、JBK プラグインのダイアログに以下のエラーが表示され、Webjet アプレットが起動されません。 「エラー: Java VM の起動に失敗しました。使用する JDK/JRE が正しくインストールされているか、またはすでにほかの Java VM が起動されていないか確認してください。」
---------------	--

原因:  
Java 実行環境として、Oracle JRE と富士通 JRE の両方がインストールされており、先に Oracle JRE を使用した Webjet アプレットが起動された後、同じブラウザで富士通 JRE を使用した Webjet アプレットを起動したためです。

対処:  
すべてのブラウザを閉じて、しばらく待ってから富士通 JRE を使用した Webjet アプレットを再起動してください。Java 実行環境として Oracle JRE を使用しない場合は、アンインストールしてください。

<b>No. 62</b>	Oracle JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動すると、ブラウザ下部に以下のエラーが表示され、デスクトップ上にエラーログのファイル hs_err_pid9999.log(9999 は任意の数字)が作成されます。 「この Web ページに問題があるため Internet Explorer のタブを開き直しました」
---------------	--

原因:  
Java 実行環境として、Oracle JRE と富士通 JRE の両方がインストールされており、先に富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動し、同じブラウザで Oracle JRE 用の Webjet 起動用 HTML を起動したためです。

対処:  
Webjet アプレットは起動されますが、一旦、すべてのブラウザを閉じてください。しばらく待ってから Oracle JRE を使用した Webjet アプレットを再起動してください。

**No. 63** 富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML で、JavaScript 連携の関数が動作しません。

原因:

以下のどれかの原因が考えられます。

1. JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)に、JavaScript 連携を使用する旨の記述がないためです。
2. Webjet 起動用 HTML の OBJECT タグに、NAME 属性を指定していないためです。
3. Webjet 起動用 HTML の OBJECT タグに指定した NAME 属性と、JavaScript 連携の関数呼出しの際に記述したアプレット識別名が一致していないためです。

対処:

以下のどれかの方法で対処してください。

1. JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)に、JavaScript 連携を使用する旨の行を記述してください。
2. Webjet 起動用 HTML の OBJECT タグに、NAME 属性を指定してください。NAME 属性には、JavaScript から Webjet アプレットにアクセスするための識別子となる名前(アプレット識別名)を指定します。
3. Webjet 起動用 HTML に記述する JavaScript 連携の関数には、以下の形式でアプレット識別名を記述します。  
document.アプレット識別名.関数名(パラメタ...)  
アプレット識別名には、Webjet 起動用 HTML の OBJECT タグに指定した NAME 属性と同じ名前を記述してください。

2017年6月23日発行

修正箇所(章節項): 6.24 マウスによるカーソルの移動について

旧記事

新記事追加

新記事

## 6.24 マウスによるカーソルの移動について

ディスプレイエミュレート画面で、マウスをダブルクリックすると、マウスポインタの位置にカーソルが移動します。ただし、ダブルクリック位置がライトペン検知可フィールド、または拡張項目選択フィールド(F6970 ディスプレイエミュレーションの場合)であった場合は、アプレットパラメタ [IGNORECURSEL](#) の設定内容によって以下のような動作となります。

**アプレットパラメタ [IGNORECURSEL](#) が“yes”の場合**  
カーソルセレクト動作を行わず、カーソル移動します。

**アプレットパラメタ [IGNORECURSEL](#) が“no”の場合(デフォルト)**  
カーソルセレクト動作を行います。

マウスによるカーソルセレクト動作を利用せず、カーソルを移動させたい場合は、アプレットパラメタ [IGNORECURSEL](#) に“yes”を設定してください。